



平成28年3月期 決算報告

クボテック株式会社

概要

- ◎液晶をはじめとするFPD分野では、スマートフォンなどの製品市場は堅調に推移しましたが、大手FPDメーカーの設備投資は、慎重な状況が続きました。
- ◎当期は、前期と比べ主力の画像処理外観検査装置や、3DCADシステム、メディアネット機器の販売が低調で営業損失、経常損失、当期純損失を計上することとなりました。
- ◎新規事業の次世代フライホイール蓄電システムの研究開発は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの助成期間も予定通り終了し、一定の成果を上げることができました。
早期の収益計上を目指して、今後は製品開発を進めてまいります。
- ◎当社グループは、新規事業と新製品の開発を進め、事業構造を早期に転換し、収益性の回復と販売拡大により、事業基盤の再構築を図る所存です。また、資産圧縮と固定経費の見直しなどで損益構造の改善に努めてまいります。

経営成績

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成28年3月期)	前期 (平成27年3月期)	来期予想 (平成29年3月期)
売上高	2,636	3,462	3,200
営業利益	△ 134 (△5.1%)	119 (3.4%)	110 (3.4%)
経常利益	△ 150 (△5.7%)	111 (3.2%)	100 (3.1%)
当期純利益	△ 168 (△6.4%)	535 (15.5%)	90 (2.8%)

◎当期は、画像処理外観検査装置などの売上高が前期に比べ大幅に減少し、損益は赤字となりました。

◎海外子会社では、KUBOTEK KOREAは大手FPDメーカー向けの売上が増加し増益となりました。

また、Kubotek USAは固定費の削減効果などから損益は改善しました。

◎来期は、FPDメーカーの設備投資は中国、国内向けにやや改善する見通しですが、世界経済の減速もあり先行きは不透明と考えております。

こうした中で、既存事業での売り上げ確保と新規事業・新製品の開発を推進し、業績回復に努めてまいります。

貸借対照表

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成28年3月期)		前期 (平成27年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産				
現預金	1,373	39.6	1,292	32.6
売上債権	743	21.5	1,134	28.6
たな卸資産	414	11.9	532	13.4
その他	△ 60	△ 1.7	8	0.2
固定資産	996	28.7	997	25.2
資産計	3,466	100.0	3,963	100.0
流動負債	1,795	51.8	2,288	57.8
固定負債	586	16.9	409	10.3
負債計	2,381	68.7	2,697	68.1
資本金	1,951	56.3	1,951	49.2
利益剰余金	△ 802	△ 23.2	△ 633	△ 16.0
その他	△ 64	△ 1.8	△ 51	△ 1.3
純資産計	1,084	31.3	1,266	31.9
負債及び純資産計	3,466	100.0	3,963	100.0

◎総資産は、前期末に比べ売上債権、在庫などで5億円減少し、34億円となりました。

◎負債は、前期末に比べ仕入債務など約5億円減少し、借入金で約2億円増加した結果、23億円となりました。

◎純資産は、純損失の計上から約2億円減少し、10億円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当 期 (平成28年3月期)		前 期 (平成27年3月期)	
	金 額	構成比(%)	金 額	構成比(%)
日 本	1,538	58.4	2,633	76.1
米 国	470	17.8	498	14.4
韓 国	627	23.8	329	9.5
計	2,636	100.0	3,462	100.0
うち海外	1,754	66.6	2,191	63.3

◎日本では、主力製品である画像処理外観検査装置の受注が低調で当初計画を下回り、また前期に比べ大幅な減収となりました。
さらに、3DCADシステムやメディアネット機器も前期に比べ減収となりました。

◎米国では、固定費の削減と開発・販売体制を整備する中で、CAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の売上が若干減少したものの、前期に比べ損益は改善し黒字となりました。

◎韓国では、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連の売上が好調で、増収増益となりました。

キャッシュ・フロー計算書

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成28年3月期)	前期 (平成27年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	64	6
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 147	914
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	170	△ 693
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 6	29
V.現金及び現金同等物の増加額	80	257
VI.現金及び現金同等物の期首残高	1,199	942
VII.現金及び現金同等物の期末残高	1,280	1,199

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、純損失の計上や仕入債務の減少による支出があったものの、売上債権の回収や在庫の減少により、64百万円の収入となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、CAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の開発投資などで1億4千万円の支出となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、借入等により1億7千万円の収入となりました。

受注状況

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成28年3月期)	前期 (平成27年3月期)
受注高	1,666	2,499
受注残高	678	886

◎当期は、主力製品である画像処理外観検査装置は、スマートフォンなどの製品需要は堅調に推移しましたが、FPDメーカーの設備投資は慎重な動きがみられ、国内をはじめ中国など海外の受注も減少しました。

◎来期は、従来の液晶をはじめ有機ELや機能性フィルム、タッチパネル向けなどの検査装置の開発・販売を強化し、新規顧客の開拓を進めると共に、成長が見込まれる中国市場に注力し、受注を確保する方針であります。